

【3月 弥生(やよい)】

春の始まり。温かくなって、暦でも 啓蟄^{けいちつ} (土の中から虫が顔を出す)や、春分(春の始まり)といった言葉が聞かれる月になりました。保育園・幼稚園・学校も次の新しい始まりに向かう時期ですね。終わりと始まりの間の季節。思い出がたくさんつまっている月でもあります。

<3月の行事>

3日 ひな祭り

5日ごろ 卒業式・卒園式

21日ごろ 春分の日(春のお彼岸)

ひな祭り

現在、3月3日は雛人形を飾って女児の成長を祝う行事ですが、昔は性別や年齢を問わず、幸せを願う行事だったことを知っていましたか。元々は上巳、桃の節句とも言い、女児の初節句には、雛人形や日本人形を飾り、菱餅やあられ、白酒を供え、桃の花を飾ります。菱餅はよもぎ入りの草餅、白餅、食紅入りの赤い餅を重ねて菱形に整えます。節句が終わると、雛人形はすぐに片付けます。また、雛人形は「毎年出してあげないと泣く」とも言われています。



上巳の節句(五節句の一つ)

上巳とは、3月最初の巳の日を示します。中国では禊をする節日とされています。4世紀に、3月最初の巳の日が3日に固定されたようです。

日本でも、奈良時代には3月3日に宮中などで曲水の宴を催しました。これは、上流から杯を流し、その杯が自分の前を通り過ぎるまでに詩歌を詠み、その杯を取り上げて酒を飲むというものです。

現在では、太宰府天満宮などで行われています。

ひな人形

はじまりは、人のけがれを紙人形に移して川に流していた流し雛とされ、それが人形を飾る形に替わったといわれています。

江戸時代には、布で正装した「すわり雛」となり、高貴な夫婦を表わした一對の内裏雛が生まれました。その後、5・7段などの雛段に飾るようになりました。上段から内裏雛、三人官女、五人囃子などを置き、これに屏風、蒔絵道具、高坏、膳、ぼんぼり、桜とたちばなをはじめ菱餅、白酒などを供えます。

現在、ひな祭がすっかり定着し盛んになったことから、さらに多様な人形や飾りが作られています。